

# 岡山県感染症週報 2019年 第17週 (4月22日～4月28日)

## ◆2019年 第17週(4/22～4/28)の感染症発生動向(届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第15週	5類感染症	急性脳炎 1名(60代 男) 侵襲性肺炎球菌感染症 1名(中学生 男) 百日咳 1名(60代 男)
第16週	4類感染症	重症熱性血小板減少症候群 1名(80代 女) レジオネラ症 1名(70代 女)
	5類感染症	ウイルス性肝炎 1名(20代 男) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名(70代 女) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1名(60代 女) 侵襲性肺炎球菌感染症 1名(80代 男) 梅毒 2名(20代 男 1名、60代 男 1名) 百日咳 6名(幼児 男 1名・女 1名、小学生 男 1名・女 1名、 中学生 男 1名、40代 女 1名)
第17週	2類感染症	結核 3名(50代 女 1名、60代 男 1名、80代 男 1名)
	4類感染症	レジオネラ症 1名(60代 男)
	5類感染症	アメーバ赤痢 2名(40代 女 1名、50代 男 1名) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名(80代 女) 梅毒 4名(30代 男 1名、40代 男 1名・女 1名、70代 男 1名) 百日咳 7名(幼児 男 1名、小学生 女 2名、30代 男 1名、 40代 女 2名、60代 女 1名)

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○インフルエンザは、県全体で91名(定点あたり1.43→1.08人)の報告があり、前週から減少しました。

○感染性胃腸炎は、県全体で432名(定点あたり8.00→8.00人)の報告があり、前週と同数でした。

1. [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)](#)は、第16週に1名の報告がありました。なお、2018年には2名の報告がありました。SFTSは、ウイルスによって引き起こされる感染症で、病原体を保有するマダニ(ワタゲチマダニ等)に咬まれることで感染します。ダニに咬まれないための予防対策についてはコラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう!」をご覧ください。
2. [百日咳](#)は、2019年第17週までに87名の報告がありました(2018年の同時期:55名)。年代別では小学生(40名、46%)、20歳以上(20名、23%)、0～6歳の乳幼児(17名、20%)が多く報告されています。地域別では、倉敷市(38名、44%)、備中地域(21名、24%)、岡山市(19名、22%)の順に多くなっています。百日咳は、ワクチン未接種の乳幼児が患すると無呼吸発作などを起こすことがあり、重篤化しやすく注意が必要です。2018年の百日咳サーベイランスから、乳幼児の感染源としては兄弟姉妹が最も多いことが分かっています。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『[咳エチケット](#)』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。
3. [インフルエンザ](#)は、県全体で91名(定点あたり1.43→1.08人)の報告があり、前週から減少しました。地域別では、倉敷市(1.81人)、岡山市(1.55人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ『[岡山県 2018/2019年 インフルエンザ発生状況](#)』、『[入院サーベイランス](#)』、『[インフルエンザとみられる学校等の臨時休業について](#)』をご覧ください。

4. **感染性胃腸炎**は、県全体で432名（定点あたり8.00→8.00人）の報告があり、前週と同数でした。地域別では、岡山市（13.86人）、美作地域（9.50人）、真庭地域（8.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。感染予防の詳細については『[ノロウイルス感染症とその対応・予防](#)』（国立感染症研究所）や『[ロタウイルスに関するQ&A](#)』（厚生労働省）をご覧ください。

#### 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★★
突発性発疹		★	ヘルパンギーナ		★
流行性耳下腺炎		★	急性出血性結膜炎		
流行性角結膜炎		★	細菌性髄膜炎		
無菌性髄膜炎			マイコプラズマ肺炎		
クラミジア肺炎			感染性胃腸炎(ロタウイルス)		★★

【記号の説明】 前週からの推移：  
：大幅な増加  
：増加  
：ほぼ増減なし  
：減少  
：大幅な減少  
 大幅：前週比100%以上の増減  
 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）  
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

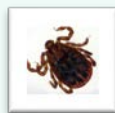
# ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

## 野外で活動する場合、以下のことに気をつけましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。

これらのダニの中には、**重症熱性血小板減少症候群（SFTS）**や**日本紅斑熱**、**つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものもあります。

春から秋（3～11月）にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。



吸血前の  
フタトゲチマダニ♀



吸血後

### 【予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤（ディートやイカリジンを含むもの）を噴霧しましょう。  
（虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。）
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

### 【マダニがついていたとき】 ～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

- ◎容易に取り除くことができる場合（2、3日以内）は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。  
なお、取り除いたマダニは、プラスチック容器等に保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合（数日以降）は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をもらってください。無理に取り除くと、口器が皮膚に残って、化膿するなど治癒が遅れる場合があります。

### 【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。

#### ★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）](#)
- ⇒ [日本紅斑熱とは（国立感染症研究所）](#)
- ⇒ [ツツガムシ病とは（国立感染症研究所）](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること（国立感染症研究所）](#)



ヤマアラシチマダニ

保健所別報告患者数 2019年 17週(定点把握)

( 2019/04/22～2019/04/28 )

2019年5月8日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	91	1.08	34	1.55	29	1.81	12	0.80	4	0.33	1	0.17	3	1.00	8	0.80
RSウイルス感染症	12	0.22	-	-	6	0.55	-	-	2	0.29	-	-	-	-	4	0.67
咽頭結膜熱	19	0.35	10	0.71	3	0.27	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	1.44	27	1.93	25	2.27	2	0.20	11	1.57	4	1.00	1	0.50	8	1.33
感染性胃腸炎	432	8.00	194	13.86	63	5.73	79	7.90	7	1.00	16	4.00	16	8.00	57	9.50
水痘	17	0.31	5	0.36	3	0.27	8	0.80	-	-	1	0.25	-	-	-	-
手足口病	27	0.50	5	0.36	1	0.09	3	0.30	6	0.86	11	2.75	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	12	0.22	9	0.64	-	-	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	17	0.31	5	0.36	6	0.55	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
ヘルパンギーナ	3	0.06	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	1.20	6	6.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2019年 17週(発生レベル設定疾患)

( 2019/04/22～2019/04/28 )

2019年5月8日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	91	1.08	34	1.55	29	1.81	12	0.80	4	0.33	1	0.17	3	1.00	8	0.80
咽頭結膜熱	19	0.35	10	0.71	3	0.27	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	1.44	27	1.93	25	2.27	2	0.20	11	1.57	4	1.00	1	0.50	8	1.33
感染性胃腸炎	432	8.00	194	13.86	63	5.73	79	7.90	7	1.00	16	4.00	16	8.00	57	9.50
水痘	17	0.31	5	0.36	3	0.27	8	0.80	-	-	1	0.25	-	-	-	-
手足口病	27	0.50	5	0.36	1	0.09	3	0.30	6	0.86	11	2.75	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	12	0.22	9	0.64	-	-	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	3	0.06	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2019年 第17週 2019/04/22～2019/04/28 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	91	-	3	4	3	2	5	1	6	1	1	2	18	13	8	6	8	5	3	-	2

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	12	2	6	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	19	-	5	7	1	2	-	3	-	-	-	-	1	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	2	1	2	6	7	10	14	9	9	3	2	8	2	3
感染性胃腸炎	432	4	51	80	56	54	35	33	30	8	11	9	24	5	32
水痘	17	-	-	3	1	1	2	4	1	1	-	2	2	-	-
手足口病	27	-	6	13	5	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1
伝染性紅斑	12	-	-	-	3	2	1	2	2	1	-	-	1	-	-
突発性発疹	17	-	6	8	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	1	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

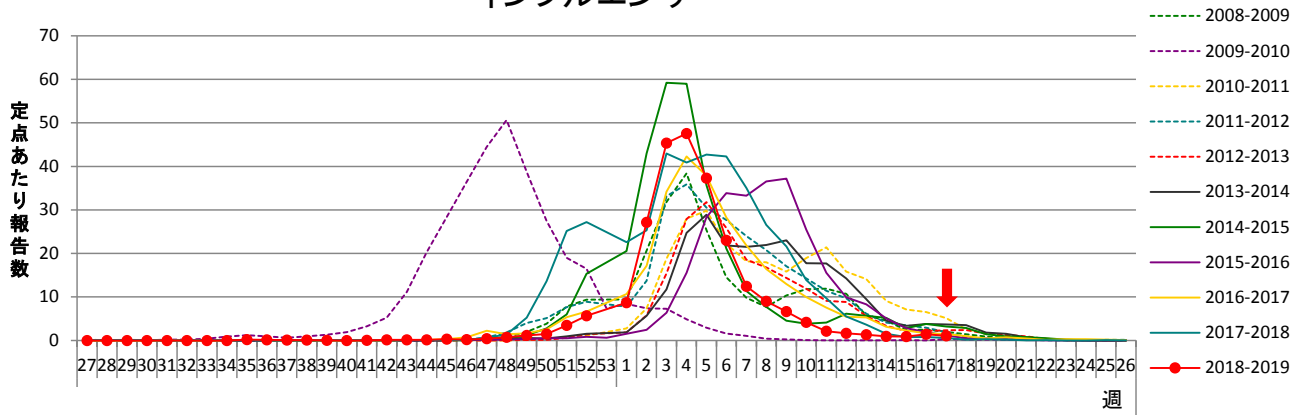
( - : 0 )

# 全数把握 感染症患者発生状況

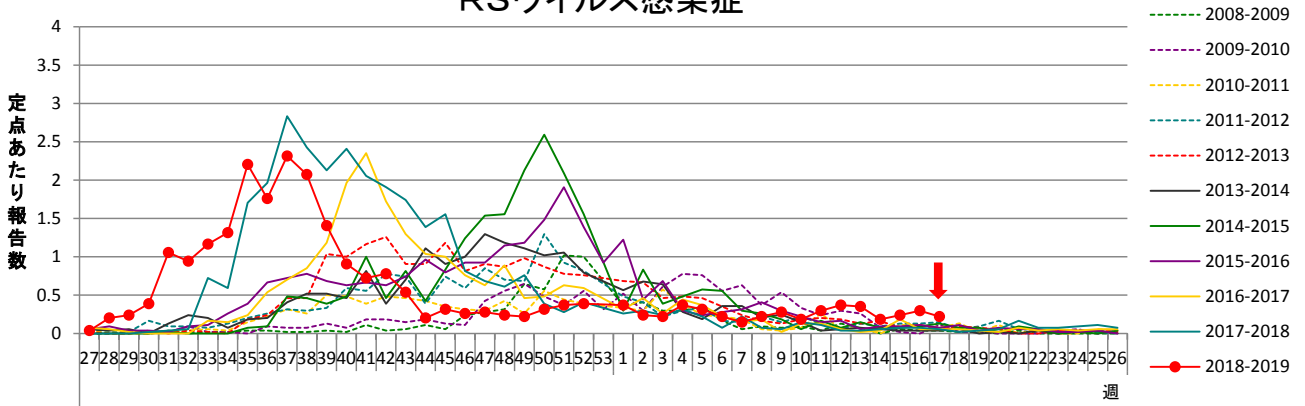
2019年 17週

分類	疾病名	2019			疾病名	2019			疾病名	2019		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-								
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	115	337	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-								
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	16	腸管出血性大腸菌感染症	-	4	70
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-				
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサナル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	2
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2
	デング熱	-	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	5
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	1	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	13	83
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-				
	五類	アメーバ赤痢	2	5	15	ウイルス性肝炎	-	2	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	12
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	1	3	急性脳炎	-	7	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	-	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	3	14	後天性免疫不全症候群	-	4	18
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症		-	17	45	水痘(入院例に限る。)	-	2	3	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		4	50	160	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	-	2
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	-	百日咳	7	87	187
風しん		-	3	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

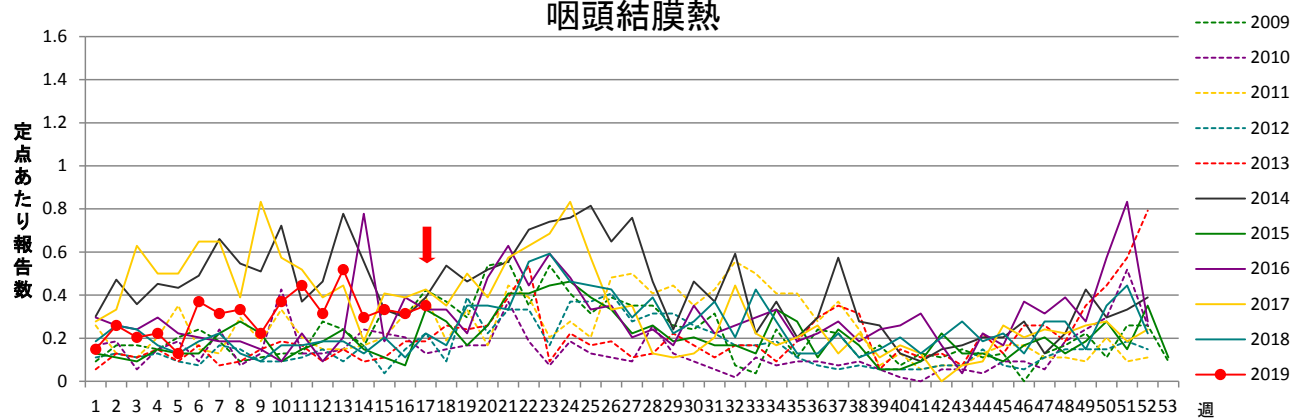
### インフルエンザ



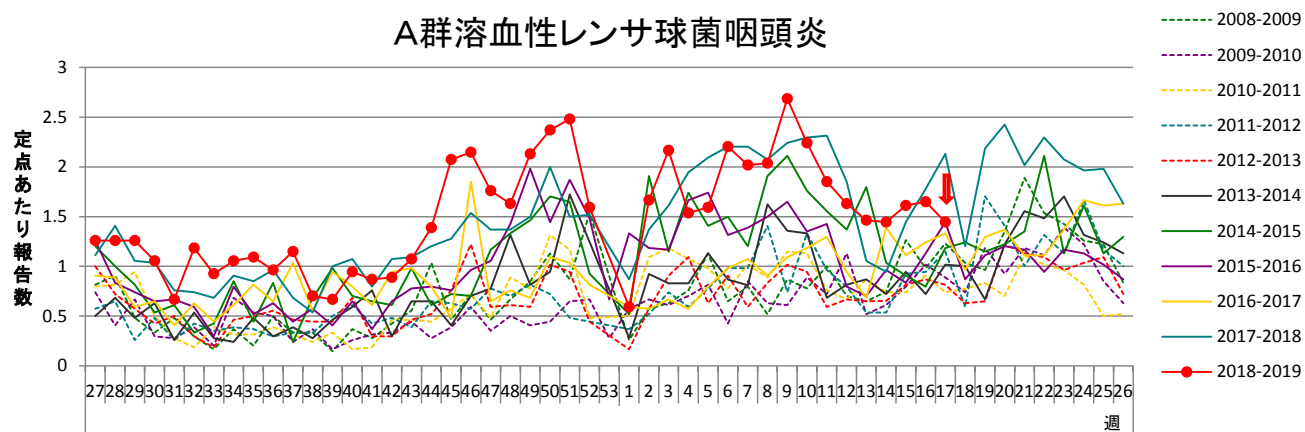
### RSウイルス感染症



### 咽頭結膜熱

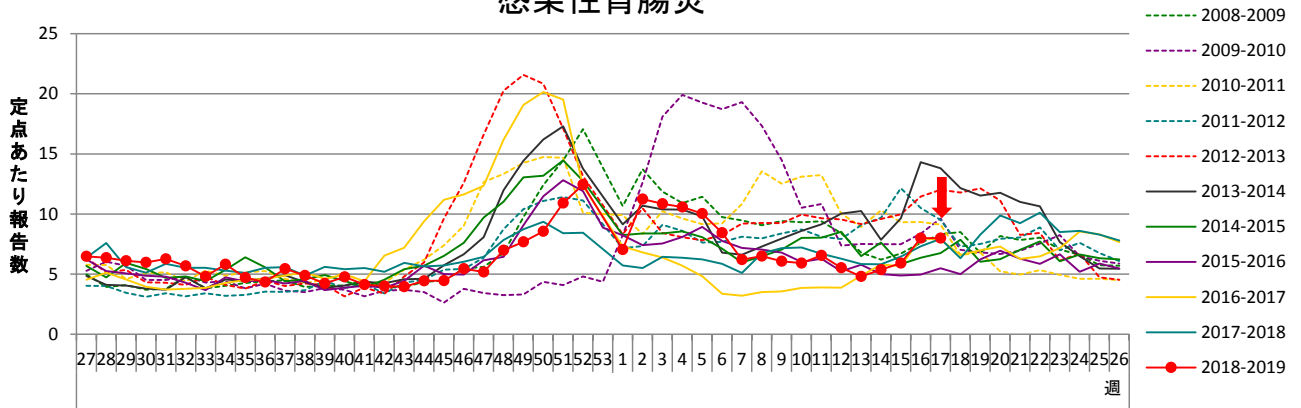


### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

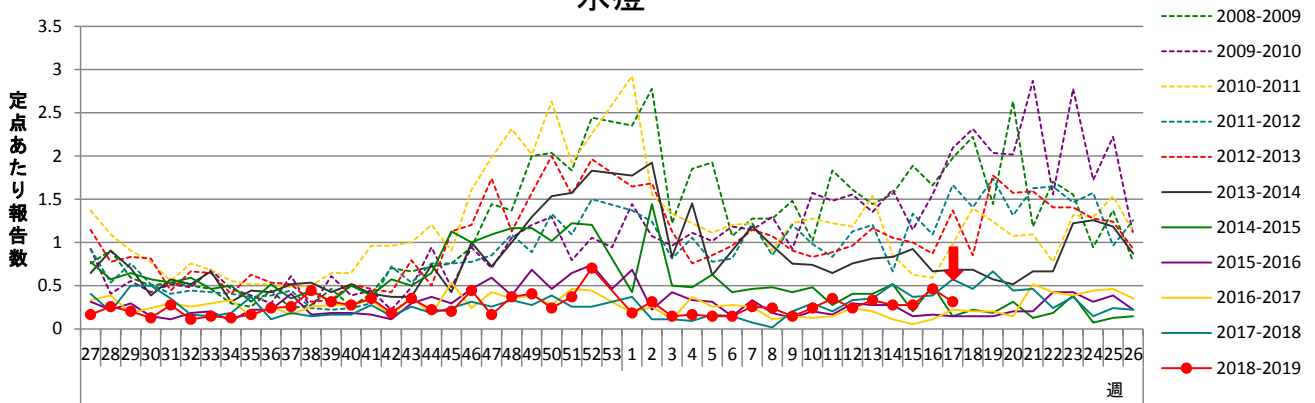




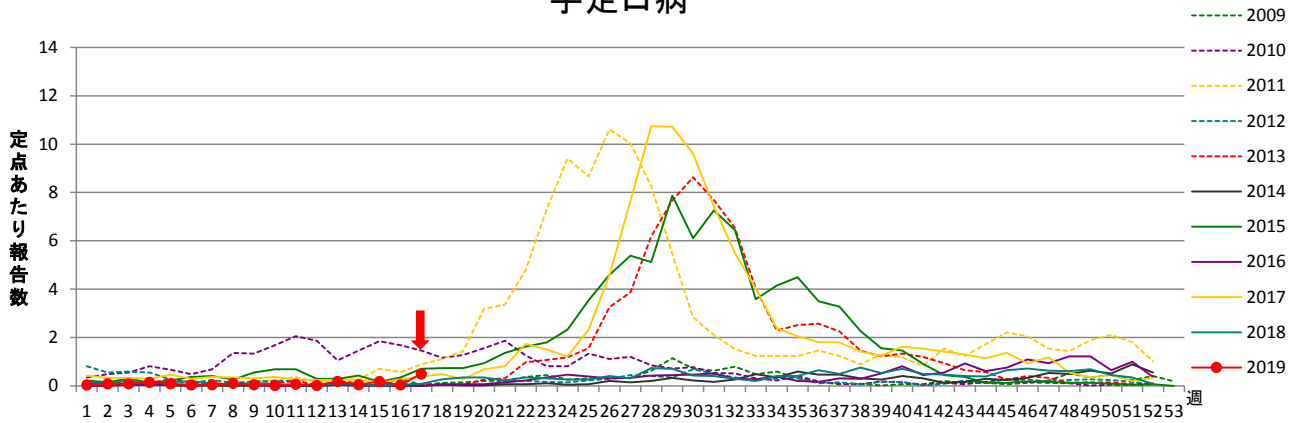
### 感染性胃腸炎



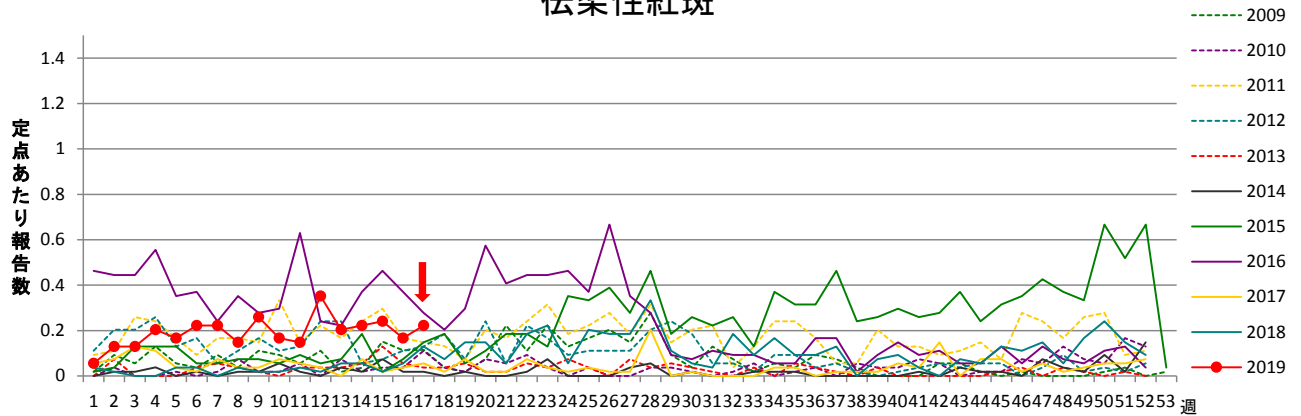
### 水痘



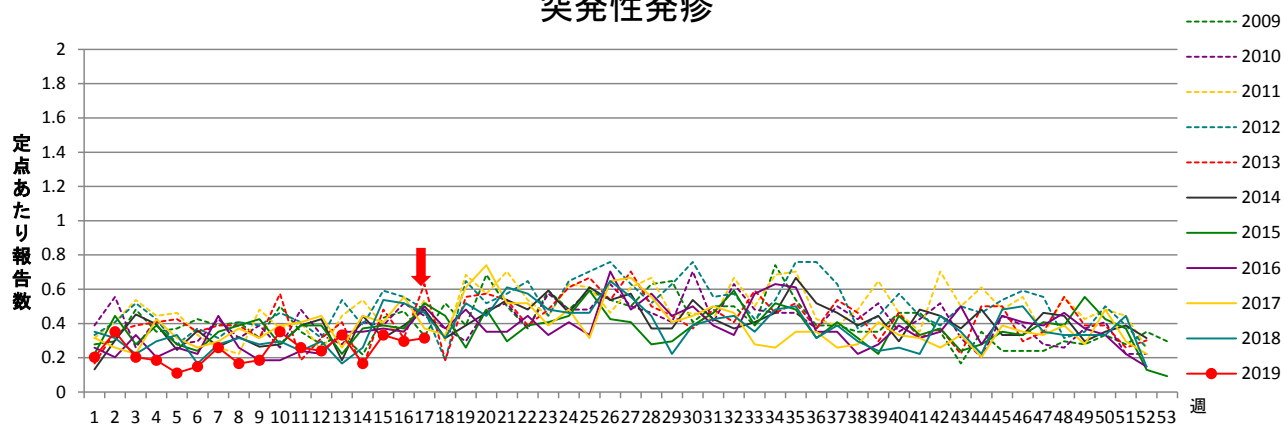
### 手足口病



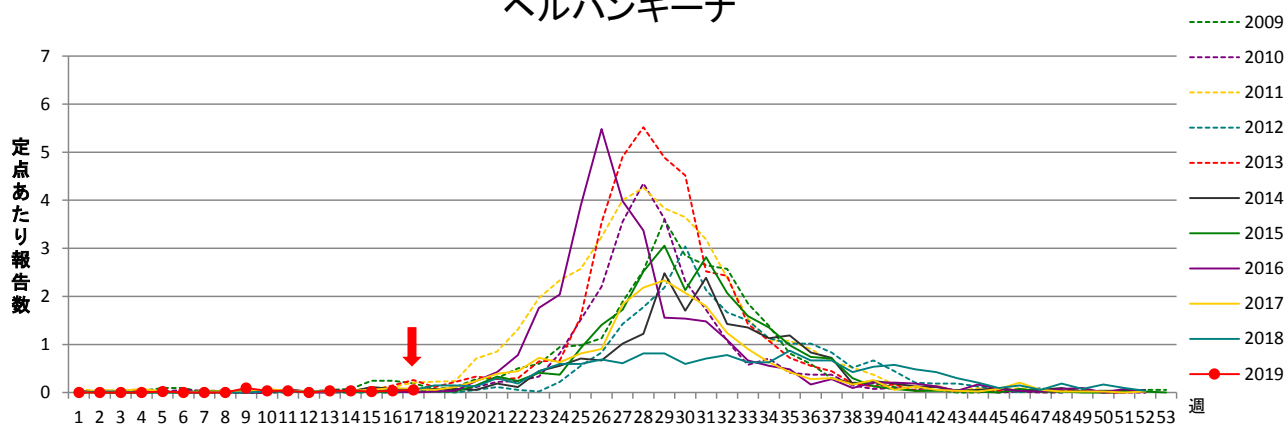
### 伝染性紅斑



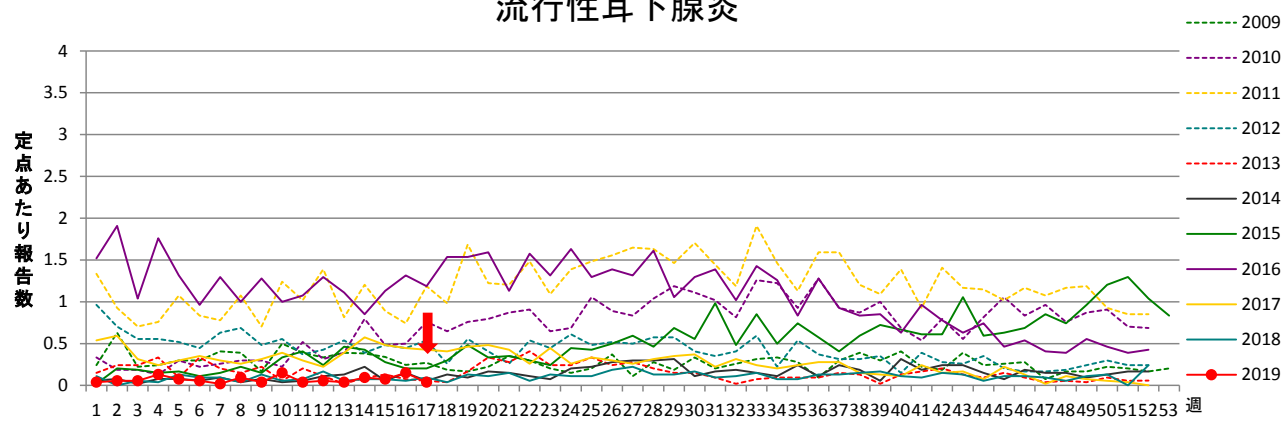
### 突発性発疹



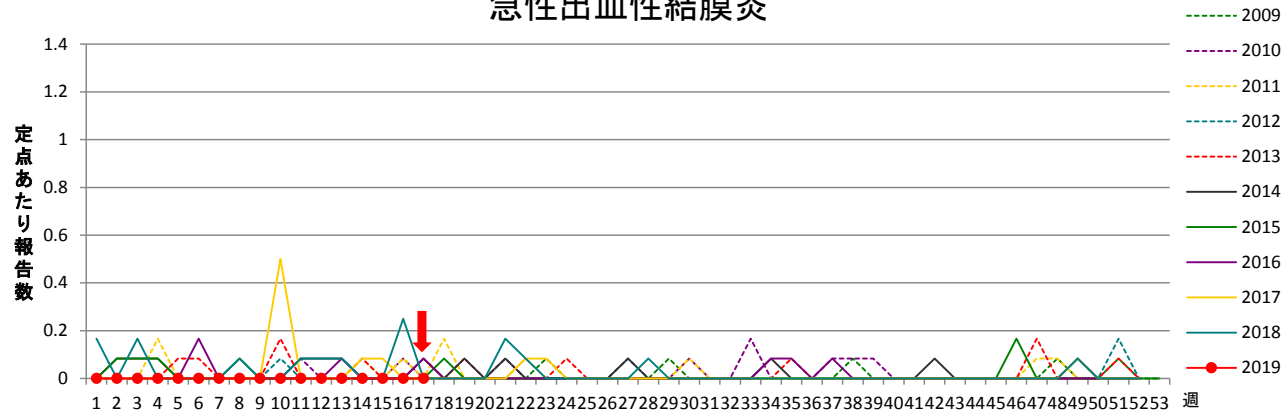
### ヘルパンギーナ



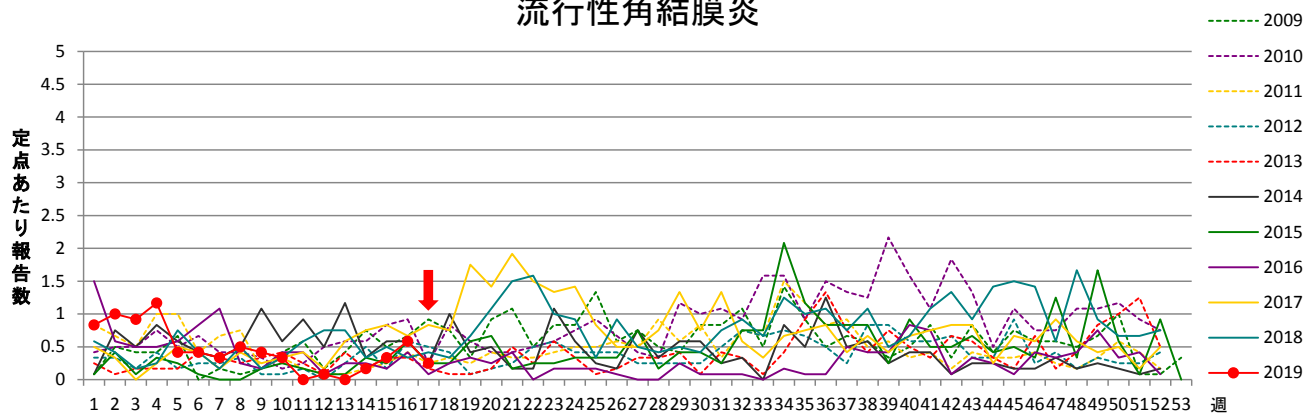
### 流行性耳下腺炎



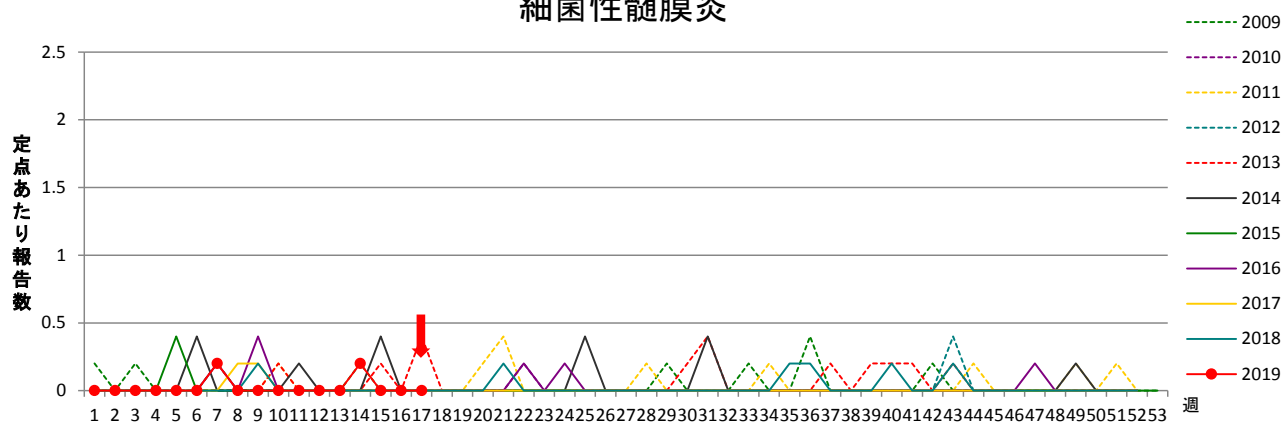
### 急性出血性結膜炎



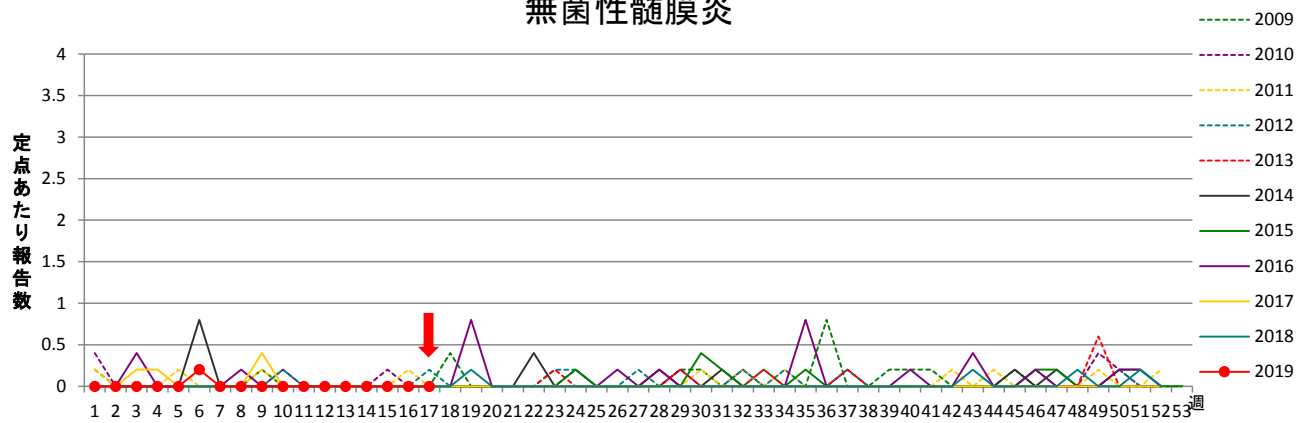
### 流行性角結膜炎



### 細菌性髄膜炎



### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎

